



閉廷後に取材に応じる  
被告の松浦大悟前参院  
議員＝秋田地裁前

# 2氏、法廷で応酬

## 落選・三井氏



閉廷後に記者会見を開  
いた原告の三井マリ子  
氏＝秋田市山王4丁目

2012年12月の衆院選秋田3区で民主党から立候補し、落選した三井マリ子氏(66)が、人格否定をされるなど精神的苦痛を受けたとして、同党県連代表の松浦大悟氏(44)と、その秘書2人を相手取り、慰謝料2760万円を求めた損害賠償請求訴訟の第1回口頭弁論が24日、秋田地裁(棚橋哲夫裁判長)であった。法廷内では、お互いが強い調子で相手を非難、亀裂の深さを改めて浮き彫りにした。被告の松浦氏は「不当な訴訟

## 県連代表・松浦氏

### 民主衆院選費用巡る損賠訴訟

で、全く理由がない」などと話し、全面的に争う姿勢を示した。訴状などによると、三井氏は、選挙費用の一部を、松浦氏らが自身の立候補する13年夏の参院選に向けて無断で使おうとしたと主張。落選後は三井氏の人格を否定する言動を繰り返し、精神的に追い詰めて追放したとしている。

原告側の意見陳述で、三井氏は原告席で立ちながら「盤石の体制で支えるという松浦氏の言葉はうそだった。選挙資金も血税が含まれ、国民を裏切る行為だ」と強い口調で話した。松浦氏は被告席に座り、三井氏の話を終始、首を横にふりながら聞いている。

一方の松浦氏は被告側の意見陳述で、自ら用意した金の流れの構図を記したパネルを傍聴席に向けて持ち、「三井氏のために最大限活動した。金の流れも透明で、やましい点はどこにもない」と述べた。三井氏は原告席に座り、じつと松浦氏をみつめていた。次回の口頭弁論は4月4日午後2時から同地裁である。

三井氏は昨年5月、松浦氏の秘書だった選対事務局補佐を有印私文書偽造同行使と詐欺の疑いで刑事告発。選挙をめぐるポストや張りなどの活動費で領収書が偽造された疑いもあり、県警が捜査している。

# 民主2陣営虚偽の収支報告

## 12年衆院選 関係者数人を書類送検

### 公選法違反容疑

政党交付金は、全国民1人 250 円の税金です。世界最高額だとか。まず政党本部に下りて支部に送金されます。支部長(衆院候補)がいなければ送金されませんので、三井さんは懇願されて支部長に。ところが被告らは、「政党交付金は選挙に使えない」と嘘を言って、三井支部長の政党交付金を残し「基金」に蓄財しました。

2012年12月の衆院選秋田3区で民主党公認で立候補して落選した三井マリ子氏、昨年7月の参院選秋田選挙区で同じく民主党公認で立候補して落選した松浦大悟前参院議員と、それぞれ選挙運動費用収支報告書に虚偽記載をしたとして、県警は6日、両陣営の複数の関係者を公職選挙法違反、虚偽記載、容疑で書類送検した。

送検容疑は、三井、松浦両氏の陣営関係者がそれぞれ収支報告書に、選挙ポスター張りをしていない有権者の名前などを記し、報酬を支払ったかのように記載したとしてい

る。送検容疑は、三井、松浦両氏の陣営関係者がそれぞれ収支報告書に、選挙ポスター張りをしていない有権者の名前などを記し、報酬を支払ったかのように記載したとしてい

る。送検容疑は、三井、松浦両氏の陣営関係者がそれぞれ収支報告書に、選挙ポスター張りをしていない有権者の名前などを記し、報酬を支払ったかのように記載したとしてい

## 県連に説明責任

### 解説

民主公認候補者の2陣営関係者が選挙運動費用の収支報告書を虚偽記載していたとされる公選法違反事件。民主県連には当然、説明責任が求められることになる。松浦大悟前参院議員に

の容疑で書類送検した。一連の問題は、三井氏が相手手に告発した。

の容疑で書類送検した。一連の問題は、三井氏が相手手に告発した。

